

平成19年度

地域ネットワーク会議

高齢者問題を地域内で考える

「心をつなごう私たちのまち、みんなで創ろうあびらのまち」をテーマに平成19年度地域ネットワーク会議が10月29日に早来町民センターで開催。自治会の代表や福祉協力員などが一堂に会して地域福祉についての講演や話し合いが行なわれました。地域で取り組んでいる事例発表や日ごろの課題が出され、活発に意見が述べられました。その概要について紹介します。

高齢者虐待の実態

基調講演は、札幌市厚別区地域包括支援センターの石崎剛氏を招き「高齢者虐待防止ネットワークと住みよい地域づくりをすすめるために」と題して、高齢者虐待の現状を資料に基づき解説。被害者の約8割が女性で、加害者の9

割近くが高齢者と同居している人だと言います。

虐待の改善に向けて

高齢者の虐待の原因の一つに、介護の苦勞を家族が分らず介護者に大きなストレスが生じることです。デイサービスなどを利用し、介護負担の軽減を図る必要があります。地域が介護をしている人や高齢者を支援し助け合うことも有効な手段です。

地域社会でも支えきれない場合には行政に相談しましょう。高齢者の虐待や認知症対策は、まず第一に地域で取り組むことです。

地域社会の役割

地域社会の中で住民は、その人らしく自立して生きようとしています。自分なりの介護予防があり、自分自身の人生の主人公となることです。



事例発表をする福祉協力員の小笠原愛子さん



ふれあいサロンで

高齢者との交流を

追分花園地区では、年2回地域の子ども会と一緒に高齢者の方とふれあいサロンを行なってきました。その後、定期的に開催する案が福祉協力員から提案され、今年3月から毎月2回実施しています。

24時間介護が必要な高齢者のある家族の方には自分の時間を持つことができると好評でした。

初めは1時間いると帰ると言い出していた高齢者が2時間我慢できるようになり、掃除も手伝いデイサービスにも参加できるほどになりました。高齢者と一歩一歩交流を深めることが、その人を含めた地域を成長させることに結びつくと感じているとのことでした。

意見交換で多くの提言

最後に、参加者が7班に分かれてグループワーク。健康なときはあまり考えていないが、家族が認知症になった場合にどう向き合うかや介護費用の問題などの課題が出され、地域社会の助け合いが大切だとの結論に至ったグループもありました。

地域の中で生きたいと願う人が多い。家族ができること、地域ができること、行政ができることをはっきりさせる必要があると話す人もいました。少子高齢社会を迎え、地域が支えあう役割は今後さらに増えていくと皆さん感じています。



真剣な話し合いが行なわれたグループワーク